

令和3年9月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## 伊豆東岸定置網における令和3年下半期の漁海況予測

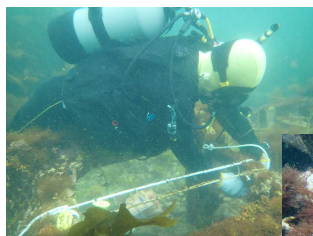
当場では令和3年下半期（7～12月）の相模湾の海況及び伊豆東岸定置網主要魚種の漁況を神奈川県水産技術センターと協議して予測しました（表）。

黒潮は大蛇行流路が継続する見通しで、解消の兆候は見られません。そのため沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移すると予測しました。また、主要魚種の来遊量は、いずれも好転する可能性は低く、概ね前年並み～下回ると考えられます。マアジは低調な漁獲が継続していますが、上半期のじんだ（小型当歳魚）の漁獲状況から下半期の来遊量は前年を上回ると予測しました。太平洋のゴマサバの資源量は減少傾向にあり、そのため伊豆東岸定置網の漁獲量も減少傾向にあることから、下半期の来遊量は前年を下回ると予測しました。

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移する。
マアジ	来遊量は低調な前年を上回る。魚体は尾叉長15～20cm及び20cm以上。
マサバ	来遊量はゴマサバに混じる程度。魚体は尾叉長30cm前後。
ゴマサバ	来遊量は前年を下回る。魚体は尾叉長25～30cm及び30cm以上。
マイワシ	来遊量は前年並み。魚体は被鱗体長10～15cm。
カタクチイワシ	来遊量は前年並み～上回る。魚体は被鱗体長9cm未満及び10cm以上
フリ	来遊量は前年を下回る。わかし・いなだ銘柄主体。
スルメイカ	来遊量は低調な前年並み。

### テングサ種苗の移植試験について

当場では、テングサ藻場回復のために、人工的に生産したテングサ種苗を天然漁場へ移植する試験を行っています。昨年の6月から今年の5月にかけて毎月、実験室で培養した2cmほどのテングサ種苗をクレモナ糸に挟み込んで、当場前の砥河浦に設置されているポリコンアワビ礁に張ったロープに固定して、移植しました。移植したテングサ種苗を毎月大きさを測定し、天然漁場への移植方法を検討しています。



↑ テングサ種苗の移植作業

↓ 成長した移植テングサ



### 新型コロナウイルスまん延防止への対応

8月上旬に静岡県にまん延防止等重点措置が適用され、重点措置区域に下田市を含む県東部地区が指定されました。当場では、新型コロナウイルスの感染防止のため、8月11日に予定していた県民の日イベント「親子水産教室」の開催を中止しました。現在、静岡県には緊急事態宣言が適用されていますが、当場の展示ホールは開館しており、見学が可能です。ご来場の際は、マスクの着用や手指消毒などについてご協力をお願い致します。



↑ 展示室の様子

**9月の予定** ●キンメダイの人工授精 ●イセエビ測定 ●令和3年度カタクチイワシ・ウルメイワシ資源評価会議及びカタクチイワシ・ウルメイワシ研究機関会議（6日） ●下田高校社会人講話（10日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。